

【研究ノート】

新渡戸稲造旧蔵書の書き込み調査の経過
— その特徴とスミス『国富論』への書き込みについて —

山 本 慎 平

研究ノート

新渡戸稲造旧蔵書の書き込み調査の経過 — その特徴とスミス『国富論』への書き込みについて —

山本 慎平
Shimpei YAMAMOTO

目次

1. はじめに
2. 新渡戸蔵書の所在
3. 新渡戸蔵書の特徴
4. 書き込みの識別方法
5. 北海道大学附属図書館新渡戸文庫の蔵書について
6. 書き込みの内容
7. 『国富論』への新渡戸の書き込み
8. 新渡戸と新自由主義(ニューリベラリズム)
9. 今後の課題

1. はじめに

本稿は、新渡戸稲造旧蔵書(以下新渡戸蔵書)に所蔵されている本の書き込み調査の中間報告である。新渡戸稲造(1862-1933)は現在の盛岡市に生まれた。札幌農学校を卒業した後、東京帝国大学などで植民政策を教えつつ、第一高等学校の校長や通俗雑誌への投稿を通して、教育啓蒙活動を行った。晩年には国際連盟事務局次長を務めている。生前新渡戸が所蔵していた膨大な本は、現在北海道大学、東京女子大学、東京大学、青森県十和田市にある新渡戸記念館に保存されている。筆者は現在北海道大学の蔵書を中心に新渡戸蔵書を調査している。そこでこれまでの調査

結果と今後の課題をまとめておきたい。

はじめに、蔵書の調査を行っている背景について触れておきたい。この調査は新渡戸がイギリスの経済学をいかに受容したかについて明らかにするためのものである。学生時代に新渡戸の演習をとっていた経済学者大内兵衛によれば、東京帝国大学教授として新渡戸はアダム・スミス経済学を評価していた(大内1960b, p.22)。1920年、東京帝国大学法科大学から経済学科が分離して経済学部が新設されたとき、新渡戸はロンドンで売り出されていたアダム・スミスの蔵書303冊を購入し寄贈した。このように新渡戸がスミスを評価していたことは断片的にわかっている。ところが、新渡戸がいかにスミスの経済学を、

あるいは更に広く言えばイギリス経済学を受容したかについてはよくわかっていない。その大きな原因として新渡戸が経済学の専門書を書かなかった事が挙げられる。よって新渡戸蔵書の書き込みから新渡戸の経済思想を明らかにすることを試みたい。新渡戸は西洋経済学を日本に受容し、またそれを大学で学生に教えた最初の世代である。彼のもとで学んだ学生の中には、矢内原忠雄や大内兵衛などの著名な経済学者がいる。新渡戸の経済思想を明らかにすることで草創期の日本の経済学の成り立ちの一端が明らかになる。

以下では、第一にこれまで調査した新渡戸蔵書の書き込みから現在までに明らかになった特徴についてまとめる。第二に、特に書き込みの多いスミス『国富論』への書き込みについて論じたい。

2. 新渡戸蔵書の所在

新渡戸の死後、彼が所蔵していた多数の本は3つの大学と記念館に寄贈された。北海道大学に1862冊(雑誌を含め1907冊)、東京女子大学に約5700冊、東京大学に281冊、十和田市新渡戸記念館(閉鎖中)に約7000冊。これらの蔵書の中には新渡戸による線引きや書き込みのある本がある。

(1) 北海道大学

北海道大学附属図書館新渡戸稲造文庫に1862冊(雑誌を含めると1907冊)収められている。主に、農学、経済学、欧米の植民政策についての本である。英語やドイツ語・フランス語が多い、少ないが日本語の本もある。

(2) 東京女子大学

東京女子大学図書館ホームページによると、新渡戸稲造記念文庫に約5700冊ある。新渡戸の死後家族から寄贈されたもの3300冊に新渡戸が学長であったときに大学図書館のた

めに集めた2400冊をあわせたものである。所蔵されている本は、主にキリスト教、歴史、伝記、文学。英語の著書が多い。

(3) 東京大学

東京大学経済学図書館の新渡戸図書に281冊の蔵書が保存されている。主に、新渡戸が東京帝国大学経済学部で教えていた、植民政策、国際経済関係の本である。多くが洋書である。

(4) 新渡戸記念館

十和田市の新渡戸記念館に約7000冊の蔵書がある。日本語の本が中心である。新渡戸記念館は2019年11月現在閉鎖中であるが、ボランティアの方たちの運営により蔵書は閲覧可能である。

3. 新渡戸蔵書の書き込みの特徴

設楽(2012)は東京大学新渡戸図書に収められている蔵書を調査している。特に蔵書の使用言語、蔵書に押されている蔵書印や新渡戸の書き込みについて分析している。ここでは、設楽(2012)をもとに、これまでの独自調査でわかったことを加えながら、新渡戸の書き込みの特徴を挙げていく。^[1]

(1) サイドライン、アンダーラインと色

設楽(2012)によれば、東京帝国大学で新渡戸の学生であった大内兵衛は次のように記している。

「私はまた新渡戸稲造先生にも、その演習に参加して読書の方法を教わった。…[先生は] こういった。本を読むときは必ず青・赤の鉛筆をもて。そしてアンダーラインとサイドラインをできるだけきれいに引け。そのラインが何を意味するかは自分で決めよ。例えば、青は文章の妙、赤は論旨の重要、サイド

ラインの長いのは再読を要するところ、短いのは他日必要ができたなら引用する価値のあるところという風に。…後年新渡戸先生のおどろくべき量の蔵書を、私はあちこち探検する機会をもったが、その本に残っている先生の読書のあとにより、先生は、右の心がけを実行していたことを確認した」(大内兵衛 1960a, p.55)

大内証言と同様の特徴を持った書き込みが見られることから、設楽は東京大学の新渡戸図書館の書き込みが新渡戸によるものと推測している。北海道大学と東京女子大学の新渡戸蔵書にも、同様の黒や赤や青色のアンダーライン、サイドラインが見られる。よってこれらも新渡戸によって書き入れられたものと考えて良いだろう(写真1)。

(2) 書き込みの色

線引きだけでなく、新渡戸によって書かれたとみられる書き込みにも異なる色が使用さ

れている。現在わかっているだけで、黒、赤、青、紫、茶色が使用されている。これらは鉛筆・色鉛筆・ペンによって書き入れられている。

同じ本に異なる色が使われていることもある。異なる色が使用されている場合には、大内が指摘するように異なる目的で引かれた線なのか、異なる時期に引かれた線なのか調査する必要がある。

(3) 蔵書印

設楽(2012, p.100)は新渡戸が12種類の異なる蔵書印を使用していたことを明らかにしている。それらはほぼ表紙に押されている。これらの押印を調べれば、新渡戸がその蔵書をいつごろ手に入れたのか、ある程度明らかにできる。複数の蔵書印が押されている本もある。設楽(2012)は、新渡戸はその本を再読したときに新しい印を押したのではないかと推測している。そうであるならその本は新渡戸にとって重要であったと推測できるというわけである。

(4) 書き込みに使われている言語

書き込みに使用されている言語は主に英語とドイツ語で日本語(漢字)もしばしば使用されている(写真1)。

4. 書き込みの識別方法

蔵書の書き込みが新渡戸のものであるかは注意深く鑑定しなくてはならない。ただし、新渡戸の書き込みには特徴がある。新渡戸はいくつかの略語を使用している。それらの略語は例えば、andがx, whichがwh, fromがfr., Adam SmithがA. S., divisionがdiv.のようになる(写真2参照)。

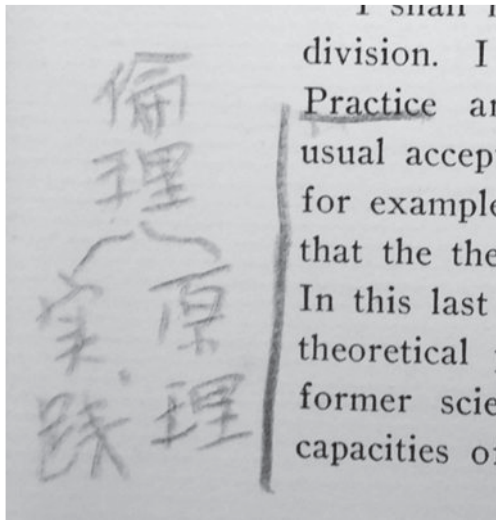


写真1. アンダーライン、サイドラインと日本語による書き込み。W. J. Ashley, *Selected Chapters and Passages from The Wealth of Nations of Adam Smith* (New York: The Macmillan Company, London, 1905) (東京女子大学図書館所蔵。以下 *The Wealth of Nations* と記す)

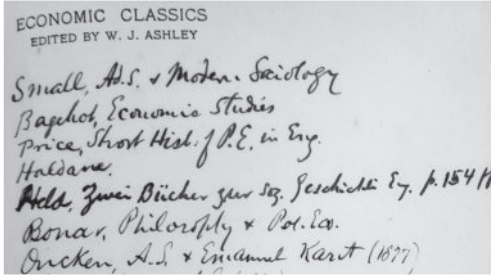


写真 2. *The Wealth of Nations* 見返し



写真 3. フルネームのサイン印 (北海道大学附属図書館所蔵)

5. 北海道大学附属図書館新渡戸稲造文庫の蔵書について

これまで北海道大学の北海道新渡戸蔵書について、調査を行ってきた。蔵書数は北海道大学附属図書館のホームページでは 1500 冊所蔵と書かれているが、図書館オンラインカタログの検索では 1862 冊と結果が表示され、雑誌も入れると 1907 冊である。オンラインカタログにより調べた言語の分類は表 1 の通り。

新渡戸はアメリカとドイツに留学していたから、英語とドイツ語の本が多いことは予想していたが、フランス語の本も多いことがわかる。

これまで本の中を調査した 260 冊の中で蔵書印の押されている本は 177 冊。線引き・チェックマーク・文字など何らかの書き込みが少しでもあるものは 79 冊。その中でも書き込みが多い(数ページ以上にわたる書き込み)と筆者が判断したものが 16 冊ある。そ

言語	冊数	言語	冊数
英語	1254	スウェーデン語	2
ドイツ語	388	ノルウェー語	2
フランス語	145	ハンガリー語	2
日本語	67	デンマーク語	1
オランダ語	16	エスペラント語	1
イタリア語	14	ポルトガル語	1
スペイン語	14	合計	1907

表 1. 北海道大学附属図書館新渡戸稲造文庫の蔵書の言語

の中には、スミス関連の以下の 2 冊が含まれる。

- ・ *A project of empire: a critical study of the economics of imperialism, with special reference to the ideas of Adam Smith*/by J. Shield Nicholson. —London: Macmillan, 1909
- ・ *Adam Smith and modern sociology: a study in the methodology of the social sciences*/by Albion W. Small. —Chicago: University of Chicago Press, 1907

蔵書印の種類は設楽 (2012, p.100) の表にあるものとほぼ同じである。設楽の表にないフルネームのサイン印もみられた (写真 3)。

6. 書き込みの内容

新渡戸の書き込みの内容は様々であるが、いくつかの種類に分類することができる。

(1) 語の意味や語源 (2) 引用 (3) その文章に関係する思想家の名前やその思想 (4) 文章に書かれていること具体例 (5) 参照 (6) 節や章の要約, である。ただしこれらは現段階における暫定的な分類であり、今後さらに正確な分類を行う予定である。

(1) 語の意味や語源

まず多く見られるものとして、語の意味や

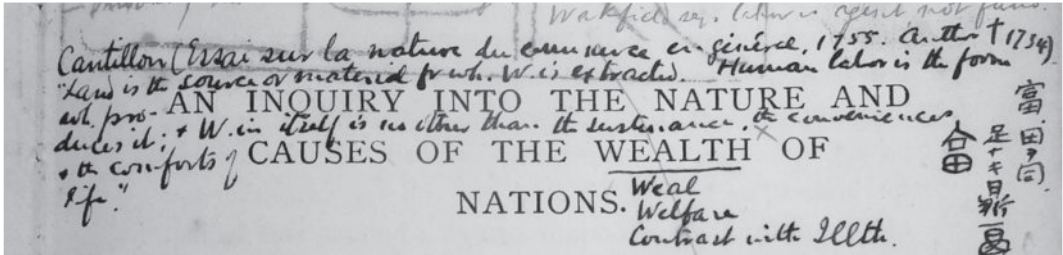


写真4. *The Wealth of Nations*, p.1.

語源についての書き込みである。写真4はアシュレーによる『国富論』の抜粋本の最初のページである。タイトルの WEALTH の単語に下線が引いてあり、Weal, Welfare, Contrast with Illth と書き込んである。またその右には漢字の富という字の成り立ちが書き入れられている。この illth という単語は J.ラスキンによって作られた造語であり、well-being にたいする ill-being (幸福や健康の欠如) を意味する。

(2) 引用

他の書物や格言からの引用も多く見られる。同じ、スミス『国富論』の最初のページにはカンティロン以下の引用がある(写真4)。Cantillon (*Essai sur la nature du commerce en général*, 1755)

“Land is the source of material from which wealth is extracted. Human labor is the form which produced it, and wealth in itself is nothing than (?) the maintenance (?), the convenience and the comforts of life.”

おそらく新渡戸は、カンティロンのこの引用部分がスミスの経済学に影響を与えたという意味でここに引用したのであろう。それぞれの引用はその節や章、あるいは本の主題と関係しているはずである。その関係性については今後精査しなくてはならない。

(3) その文章に関係する思想家の名前やその思想

写真5では J.ラスキンと J. A.ホブソンの名前が書き込まれている。このように、文章に関係する思想家の名前の書き込みも多く見られる。名前だけでなく、写真6ではスミス『国富論』の分業論の箇所に Marshall, Use of Machine may increase judgement or intelligence との書き込みがある。

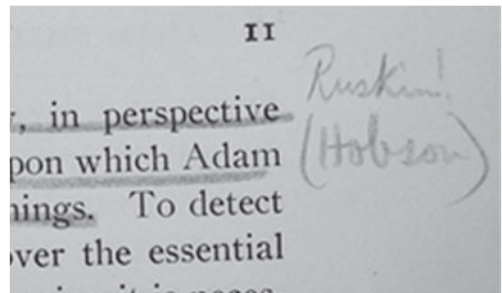


写真5. A. W. Small, *Adam Smith and modern sociology: a study in the methodology of the social sciences* (University of Chicago Press, Chicago, 1907), p. II. (北海道大学附属図書館所蔵)

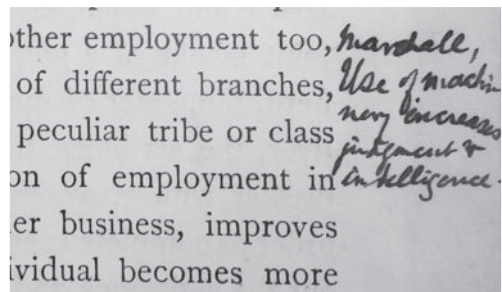


写真6. *The Wealth of Nations*, p.13.

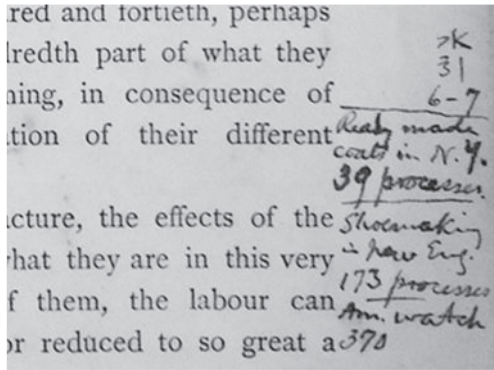


写真7. *The Wealth of Nations*, p.7.

(4) 文章に書かれていることの具体例

新渡戸は著書の中に書かれている説明を、実際に数字や具体例などを書き入れることによって補足する。

写真7は『国富論』の分業に関する部分であるが、そこに新渡戸はいくつかの商品の製造過程を調べて以下のように書き込んでいる。

 Ready made coats in N. Y.
 39 processes

 Shoemaking in New Eng.
 173 processes

 Arm watch
 370

(5) 参照

別の著作を参照するように指示している書き込みも見られる。写真8はマーシャルの『経済学原理』(Pr. of Eco.) Bk. IV, Ch. 9を参照するよう書き込まれている。

新渡戸はマーシャルの著書を『農業本論』の参考文献では挙げているが、管見の限りどの著作の中でも言及はしていない。その点から言えば、書き込みの中にマーシャルの名前が複数回出てくることは興味深い。

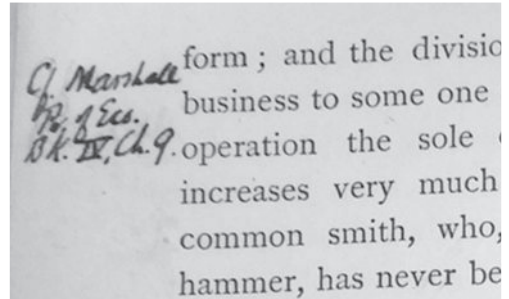


写真8. *The Wealth of Nations*, p.10.

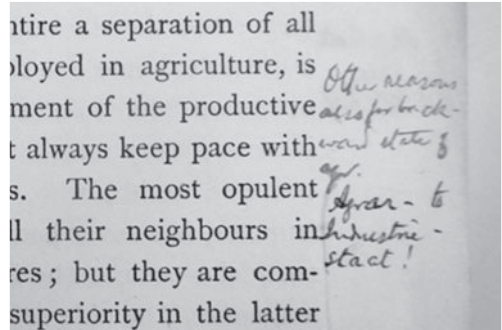


写真9. *The Wealth of Nations*, p.9.

(6) 節や章の要約

説や章の要約が書き込んである場合もある。これは、写真9のように余白に書き込んである場合もある。

Agrar- to
 Industrie-
 Staat!

あるいは、その章の最後のページの余白に新渡戸の解釈も含めた要約がしてある場合もある。

7. 『国富論』への新渡戸の書き込み

東京女子大学図書館の新渡戸稲造記念文庫に所蔵されている W. J. アシュレーによる *Selected Chapters and Passages from The Wealth of Nations of Adam Smith* (New

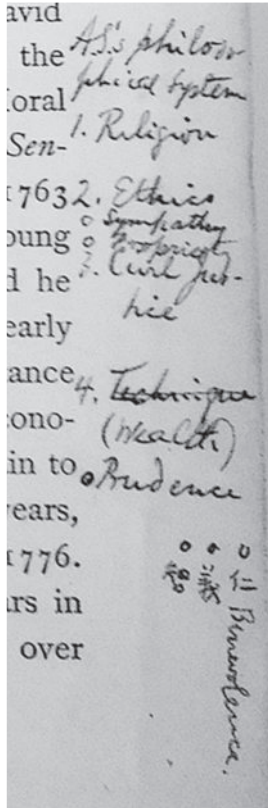


写真 10. *The Wealth of Nations*, p. v.

- A.S.'s
philosophical
system
1. Religion
 2. Ethics
 - ・ Sympathy
 - ・ Propriety(?)
 3. Civil public
(?)
 4. Technique
(Wealth)
 - ・ Prudence
 - ・ 仁
Benevolence
 - ・ 義
 - ・ 智

戸が『国富論』の実際部分に関心を持っていたことがわかる。ただし、前半の理論的部分にも多数の書き込みがありこれらの読解は今後の課題としなくてはならない。

(2) 『道徳感情論』への関心

新渡戸は『道徳感情論』を含むスミスの哲学体系 (philosophical system) に言及している (写真 10)。このことは新渡戸がスミスの経済学だけでなく、その思想全体に関心があったことを意味する。

新渡戸は明らかにスミスの『道徳感情論』に関心を持っていたが、新渡戸蔵書には『道徳感情論』は含まれていない。

新渡戸は『武士道』(1900) のなかで、スミスの sympathy について言及している。そして、アシュレー編の『国富論』では再びスミスの道徳感情と日本の道徳を比較している。ここからは新渡戸が日本と西洋 (英国) の文化比較を常に意識していた事がわかる。

York The Macmillan Company, London, 1905) には新渡戸によると見られる多数の書き込みがある。この本はスミス『国富論』の抜粋本である。書き込みのあるページの総数は、全体の約 3 分の 1 にあたる 104 ページにわたる。

(1) 実際部分への関心

アシュレーの抜粋本では『国富論』の「第三篇 国によって富裕になる進路が異なること」のローマ帝国の歴史や都市・商業の発達についての歴史的叙述が省略されている。おなじく、第四篇の「第 7 章 植民地について」の章も全てカットされている。目次にはこの省かれた章も掲載されており、新渡戸はこれらの箇所をチェックマークをつけている。これらの箇所はスミスの本では前半の理論的部分とはことなる実際部分にあたり、新渡

8. 新渡戸と新自由主義 (ニューリベラリズム)

拙稿 Yamamoto (2017) の研究を通して得た結論は、新渡戸は新自由主義 (ニューリベラリズム) に学問的にそれほど関心がなかったというものであった。しかし、書き込み調査からは、写真 5 のように新渡戸が新自由主義を提唱したホブソンと、ホブソンが共鳴していたラスキンに少なくとも 3 回以上は言及していることがわかった。そして写真 4 で見たように、新渡戸はスミスの『国富論』の wealth という単語に Contrast with illth というラスキンの造語 illth を書き込んでいたのであった。ラスキンやホブソンは「富」を富者の贅沢品ではなく、日常生活の役に立つものであると主張した。新渡戸の書き込みにラスキンとホブソンが複数回出てくること、

『国富論』の wealth に Contrast with illth と書き込んでいること、この2つからは新渡戸がラスキンやホブソンの「富」という概念を前提にして、スミスの『国富論』を読んだということが推測できる。とすると、新渡戸はホブソンらの著書を読み、新自由主義について学問的に関心を持ち研究していた可能性もある。今後さらなる調査が必要である。

9. 今後の課題

引き続き、北海道大学附属図書館新渡戸稲造文庫について調査を進める。同時に東京女子大学所蔵の『国富論』の新渡戸の書き込みについても判読作業を進めたい。一方で、蔵書調査や学会発表での質疑応答の過程で、書き込みだけで新渡戸の経済思想を明らかにするのは難しいということがわかった。よって『農業本論』や『植民地政策講義及論文集』など刊行されている新渡戸の著作の記述を、書き込みによって補完・裏付けする作業が必要になってくるだろう。

〔謝辞〕

北海道大学附属図書館新渡戸稲造文庫の調査について協力・助言を頂いている北海道大学附属図書館利用支援課梶谷晶子氏に感謝の意を表す。

〔注〕

[1] 設楽 (2012) の他に、馬場 (1999) は、新渡戸がカール・マルクスの『資本論』を日本人として初めて読み、『武士道』で引用したことを、新渡戸蔵書の書き込みから明らかにしている。しかし、これらの研究を除いて、新渡戸蔵書の書き込みを分析した研究は管見の限り存在しない。

〔参考文献〕

[1] 大内兵衛 (1960a) 『私の読書法』岩波新書
[2] 大内兵衛 (1960b) 『経済学五十年』東京大学出版会

[3] 設楽舞 (2012) 「東京大学大学院経済学研究科所蔵「新渡戸稲造旧蔵書」について：その概要と特徴」『東京大学経済学部資料室年報』(2), 95-103

[4] 馬場宏二 (1999) 「新渡戸稲造の『資本論』」『大東文化大学経済論集』74-2 : 23-37

[5] Yamamoto Shimpei (2017) “New Liberalism in Interwar Japan: A Study of the Magazine *The New Liberalism*,” in Yukihiro Ikeda and Annalisa Rosselli eds., *War in the History of Economic Thought: Economists and the questions of war*, Routledge, 117-137